



**2021年の新春をお慶び申し上げます
 本年も北里大学同窓会栃木県支部の
 活動を応援してください**

北里大学同窓会栃木県支部の皆様

支部長 滝 龍雄

支部会員の皆様、2021年のお祝いを申し上げます。
 昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で
 定期総会をはじめ予定していました支部の活動を中
 止せざるをえませんでした。残念ながら、栃木県内
 でも感染者が増加していますが、皆さまはお変わりなく
 ご活躍の事と願っております。
 本年も運営委員一同、支部活動を更に活性化させる
 ために尽力いたします。皆様のご協力をお願いします。

**北里大学同窓会栃木県支部
 第六回定期総会書面審査報告**

北里大学同窓会栃木県支部
 支部長 滝 龍雄

支部会員の皆様

上述の通り、新型コロナウイルス感染症拡大抑制の
 ため、昨年開催予定の支部の一大行事である第六回定
 期総会は中止となりました。
 書面審査となった第六回定期総会の議決について
 ご報告します。
 返信ハガキの総数は143通でした。ハガキには名前
 や賛否の無記入等もあり、集計総数は143にはなりま
 せん。ご了承下さい。

議題1：今期（2018年7月～2020年6月）活動報告

- 2018年7月 第五回定期総会・講演会（檀原宏文先
 生）・懇親会
- 8月 栃木県支部ニュース No.27 発行
- 9月 リレー・フォー・ライフ 2018 in Tochigi
- 11月 福島競馬場観戦ツアー開催
- 12月 栃木県支部ニュース No.28 発行
- 2019年2月 新年会 2019（世話人；自治医大）
- 5月 栃木県支部ニュース No.29 発行
- 7月 公開講演会（服部 幸先生）・懇親会
- 9月 リレー・フォー・ライフ 2019 in Tochigi
- 12月 栃木県支部ニュース No.30 発行
- 2020年2月 新年会 2020（世話人；栃木県職員）
- 6月 栃木県支部ニュース No.31 発行
- 7月 第六回定期総会（書面審議）
 賛成多数で承認（承認 70、否認 0、一任 66）

議題2：今期（2018年7月～2020年5月）会計報告

＜収入の部＞ 単位：円

項目	金額	備考
前期繰越金	1,102,978	
北里大学同窓会補助	246,960	講演会2回
北里大学同窓会補助	652,000	通信費補助
新年会参加費	261,000	30名、30名
懇親会参加費	267,000	30名、32名
広告協賛金	45,000	パンフレット
講演会祝い金	10,000	講師より
預金利子	19	
合計	2,584,957	

＜支出の部＞ 単位：円

項目	金額	備考
講会会場費、他	486,328	懇親会費含む
講演会事務費	45,120	パンフ、他
講師謝礼	100,000	

講演会諸経費	58,970	送迎費、花代
リレー・フォー・ライフ	80,200	参加費、広告
支部ジャンパー作成	119,016	
支部会ニュース作成	383,477	印刷費、他
新年会	347,072	飲食費、景品
弔電	1,587	
次期繰越金	963,232	
合 計	2,584,957	

賛成多数で承認（承認 71、否認 4、一任 65）

議題3：会則の改定

現行；

第五章 会 計
(会計年度)

第18条 本会の会計年度は6月1日に始まり5月31日に終わる。

改定案；

第五章 会 計
(会計年度)

第18条 本会の会計年度は4月1日に始まり3月翌々年の31日に終わる。

賛成多数で承認（承認 70、否認 4、一任 66）

議題4：次期活動計画

2020年 7月 第六回定期総会（書面審議）

8月 栃木県支部ニュース No.32 発行

12月 栃木県支部ニュース No.33 発行

2021年 2月 新年会 2021（支部長・副支部長）

5月 栃木県支部ニュース No.34 発行

7月 公開講演会・懇親会

9月 リレー・フォー・ライフ 2021in Tochigi
参加

10月 支部ゴルフ大会

12月 栃木県支部ニュース No.35 発行

2022年 2月 新年会 2022（済生会宇都宮病院）

5月 栃木県支部ニュース No.36 発行

7月 第七回定期総会

賛成多数で承認（承認 67、否認 4、一任 69）

議題5：次期役員・運営委員・会計監査の選出

支部会ニュース No.31 には手違いで松本典子さんのお名前が記載されました。申し訳ありません。

支部長；滝 龍雄（1971HH）

副支部長；岸 善明（1973VV）、福田容子（1981HI）

運営委員；

石川信一（1973HI）、山口正利（1976PP）

福田哲夫（1980MM）、磯 恵美子（1981PP）

芝田周平（1981VV）、長谷川恵美子（1981PT）

千野根純子（1984HH）、田村明美（1984HI）
福島祐子（1988PT）、村山明美（1991PT）
竹澤友妃子（1991VV）、中野陸月（1994PP）
天谷仁一（1997HI）、齋藤けさよ（1998VV）
中野友裕（1999PP）、戸田麻子（2001NN）
阿部祥次（2010VV）

事務局；

塚原訓子（1977HI）、篠崎和美（2006AM）

廣瀬英俊（2006AM）、川又圭太（2010AL）

会計監査；

鈴木 守（1980VV）、和貝和子（1982HH）

賛成多数で承認（承認 69、否認 4、一任 67）

議題6：次期予算案（2020年6月～2022年3月）

＜収入の部＞

単位：円

項 目	金 額	備 考
前期繰越金	963,232	
北里大学同窓会補助	800,000	講演会2回
北里大学同窓会補助	600,000	通信費補助
新年会参加費	300,000	30名 x 2回
懇親会参加費	150,000	30名 x 1回
広告協賛金	50,000	パンフレット
その他	10,000	
預金利子	20	
合 計	2,873,252	

＜支出の部＞

単位：円

項 目	金 額	備 考
講演会会場費、他	700,000	懇親会費含む
講演会事務費	50,000	パンフ、他
講師謝礼	100,000	
講演会諸経費	100,000	送迎費、花代
リレー・フォー・ライフ	50,000	参加費、広告
支部会ニュース作成	400,000	印刷費、他
新年会・懇親会	400,000	飲食費、景品
その他	2,000	
次期繰越金	1,071,252	
合 計	2,873,252	

賛成多数で承認（承認 68、否認 4、一任 68）

北里大学同窓会栃木県支部 公開講演会 開催

支部長 滝 龍雄

1899年に日本でペストの侵入が危惧されたとき、当時の伝染病研究所所長であった北里柴三郎が陣頭指揮にあたり、国内への侵入を最小限に食い止めた話は、会員の皆さんが大学へ入学したときに、色々聞

いたことがあると思います。明治時代から北里柴三郎と北里研究所は国内での様々な感染症の予防や治療に多大な貢献をしてきました。

今回の新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の流行はなかなか収束する兆しが見えません。栃木県支部では医学部同窓会栃木県支部と共催で以下の通り公開講演会を開催します。

日時：2021年6月26日（土） 午後3時から

会場：ニューイタヤホテル（宇都宮市内）

演者：中村 正樹先生

（北里大学医療衛生学部微生物学研究室）



経歴：

2007年3月北里大学医学部
卒業

2007年4月北里大学病院
臨床研修医

2013年3月北里大学大学院医
療系研究科修了（医学博
士）

2013年4月北里大学医学部臨床検査診断学
助教

2014年4月～現在 北里大学医療衛生学部
微生物学 助教

演題：「新型コロナウイルス感染症を科学する」

詳細は支部会ニュースNo.33に掲載します。
お待ちしております。

なお、新型コロナウイルス感染症の栃木県内での流行状況によりましては、中止や規模の縮小もありますのでご承知おきください。

今期の運営委員よりご挨拶

これまで、そしてこれから 6HH 滝 龍雄

北里大学同窓会栃木県支部の皆様、10年前に支部活動を再開して以来の支部長で、大分長くなりましたが、取り敢えず後2年間お付き合いください。

これまでの10年間は、あまり栃木県の事を知らない支部長は、岸・福田両副支部長以下運営委員の全面的な協力を受けました。

栃木県支部会費を徴収しないで支部の財政を健全に維持するために、本部よりの各種援助を出来るだけ活用して企画を立て、参加者を募り、会員を増やすことに尽力しました。その目的のために支部新年会や公開講演会の開催、Relay For Life JAPAN in Tochigi 参加などを行いました。公開講演会も好評なものも多く、時には出席希望の方にお断りをせざるを得ないこともありましたが、地元の新聞社等の協力を得て、北里大学、北里大学同窓会栃木県支部の宣伝に努力し、

活動再開時170人ほどであった支部会ニュース発送数も現在では450人近くになりました。

これからは、更に栃木県在住同窓生の参加を募るべく貢献して行きたいと、より斬新な企画を考えるとともに、運営のマンネリ化を防ぐためにいかに後を引き継いでもらえるかを念頭に活動していく予定です。

干支は12年で一周りです。次の干支は

「新しい酒は新しい革袋に」と言うように・・・

初めまして

福島 祐子

この度、北里大学同窓会栃木県支部の運営委員に新たに参加させていただきました福島祐子です。旧姓は塚田と申します。

私は昭和63年に薬学部製薬学科を卒業し、鐘紡株式会社に入社、薬品開発部に所属して新薬の開発を担当しておりました。学生時代は中学生から始めた剣道部に所属しておりました。剣道はソコソコ活動させて頂きましたが、部活のメイン行事のお酒の席では最弱で、いつも先輩方から助けを求めらうばかりでした。その折、当時は医学部の剣道部との合同稽古が週に一度くらいありましたが、酒席で大変活躍しておりましたOBの主人と出会いました。お互いに卒業後暫くは交流することはありませんでしたが、主人の同級生との新年会にたまたま参加した事がきっかけでご縁があり、結婚後平成5年の年末に鹿沼の上都賀総合病院の宿舎に転居して栃木県民となりました。

製薬会社のOLとして鹿沼から1年余りの遠距離通勤の後、退職して専業主婦となりましたが、子育てで忙しいさなか、主人の独立開業に伴い主人の実家宇都宮に転居し福島眼科医院の雑用係をして現在に至っております。

上都賀総合病院の宿舎に暮らしていた頃は、周囲に各科の医師の奥さん達が居たので、休日などは皆さんとBBQやお茶会などを通じて情報交換をする機会がありましたが、開業してからは地元の自治会はありませんが、同業者の情報は主人を通じてこの県支部会から色々学ばせて頂いております。この栃木県支部では滝先生はじめ福田先生、錚々たる諸先輩のみなさまとの知己を頂き、改めて北里大学のご縁の尊さを実感しておりました。

この度は運営委員の末席に加えて頂きありがとうございます。私自身、自院の経営や遠方に住む親の事で手一杯ですが、出来るだけみなさまのお役に立てるよう頑張りますので、どうか宜しくお願い致します。

初めまして

20VV 竹澤友紀子

今回、新しく運営委員になりました20VVの竹澤友紀子です。出身は愛知県ですが、結婚を機に平成5年

4月に栃木県民になりました(ちなみに旦那も北里大卒業生です)。仕事は、栃木県職員として家畜防疫の仕事をしています(ちなみに旦那は畜産農家です)。鹿沼市の山奥に住んでいます。熊や鹿やイノシシが出ます(笑)。

新任なのでどういったことをすればいいのかよくわかっていないのですが、少しでも栃木県支部運営のお役にたてればと思います。よろしくお願ひします。

あつという間

千野根純子(1988HH)

年齢とともに時間の経過を早く感じるのは、同じ事をするのにかかる時間が長くなるから、相対的にそう感じるのだと、いつか聞いたことがあります。その言葉を実感する毎日、時間が加速しているようです。

気がつけば定年退職まで、あと1年半になってしまいました。

まだまだ、先だと思っていたのに、カウントダウン。コロナ対応で、思い通りに動けない中ですが、仕事に、某アイドル&俳優の追っかけにと、ラストスパート!(定年後も働く予定ではあります。)

もちろん、支部運営委員のお仕事も、頑張ります。

栃木県支部がつないでくれた輪

長谷川 恵美子(1981PT)

薬学部の後輩にあたる次女と滝支部長の息子さんとは幼稚園からの同級生というご縁、そして薬学部同級生である磯さんからの誘いを頂いて支部に参加してから10年。仕事を理由にして名前ばかりの「運営委員」で十分なお手伝いができなかった事をこの場でお詫びすると共に、いつも素敵な企画を考えて楽しませてくれる支部長をはじめ、運営に関わってくださる支部の皆様に感謝を伝えさせて下さい。10年間ご苦労様でした。そして講演会、新年会など、集まれる機会をたくさん作って下さりありがとうございます。

おかげさまで私には支部がつないでくれた輪が広がりました。10年前には初対面だった獣医学部卒の兼丸先生とは毎週テニスで一緒に汗を流し(チームで白1点、大モテの兼丸先生です)、家族でお付き合いをさせていただいています。また、福田副支部長が活動されているメイク・ア・ウィッシュのメンバーさんのお一人とはリレー・フォー・ライフでお話をした事がきっかけで、今では私が「かかりつけ薬剤師」として関わりを持たせていただいています。娘さん宛に送られてきた支部会報に載っていた集合写真の私を見つけて「北里大学卒業なのですね?」と声をかけてくれたスポーツジムの方とは今ではとても仲良しさん。

2015年に大村先生がノーベル賞を受賞された時も

滝支部長からの連絡や支部会報の「お祝い号」で皆さまと一緒に喜びを共有できたので、親戚が賞をもらったかのような興奮した、うれしい気持ちになれたのだと思います。栃木県支部に感謝!

次にお会いできる機会を楽しみにしています。

「近況報告」

4VV 岸 善明

昭和25年生まれ、44年に獣医学科に入学しました岸と申します。副支部長を仰せつかりました。私が北里に入学した時、たまたま、ワンダー・フォーゲル部に入部しました。その時のクラブの部長が現在の滝支部長でした。私は卒業後に栃木県に戻りましたが、その時、先輩は新設された自治医科大学の微生物研究室に奉職されました。先輩とは近い距離で48年間交流があります。この様な関係でしたので滝支部長が北里大同窓会栃木県支部を立ちあげた時、そして、その後の支部活動に協力させて頂きました。

今年、私は新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行している中、人生の一つの節目である古稀を迎えました。節目ですのでそれなりに考える時間を持つつもりでしたが、コロナの圧力で今までどおりに、惰性で過ごしております。

惰性I(山登り): コロナの関係で県外登山は中止。栃木百名山を中心に登山。先日、2020年にお薦めの山、於呂俱羅山に登りました。於呂俱羅山は日光の切り込み湖、刈り込み湖の北部に聳える標高2,020mの山で日光山の夏峯行路にあります。登山口は戦場ヶ原から山王林道に入り数キロ、山王峠から約1km先にありますが目印となる看板等はありません。ここから登山道を約2時間歩き於呂俱羅山の山頂に至ります。山頂までの登山道は確りとした登山道です。その先の金田峠と深山之宿までの道は不明な箇所が多々ありますが、目印を頼りにして何とか辿れます。

惰性II(絵): コロナの関係で展覧会の多くが中止されました。油絵を描く機会が減りましたが、水墨画を中心に活動中です。

惰性III(家庭菜園): 里芋、モロヘイヤの豊作。トマト、ラッキョウ、トウモロコシ、イチジクの不作。

この様な中ですが、高齢者の社会的責任として安全装置装備の車に乗り換えて活動しております。残された時間を健康に、そして有効に過ごすことが、我々古稀年代の合い言葉です。

以上、近況報告とさせていただきます。

福田容子です

福田 容子

私たちは今、新型コロナウイルス感染拡大という世界中、誰もが経験したことのない未曾有の災厄に直面し、全ての人々の生活が一変しました。

私に関わっているボランティアの一つ、メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン（難病と闘っている子どもたちの夢をかなえるお手伝いをしている国際的なボランティア団体です）の栃木県での活動は休止状態ですが、東京本部は電話やメールで直接会わずに夢実現のお手伝いをしています。

もう一つのボランティア、チャイルドライン（十八歳までの子どもがかかる専用電話とチャット。全国のチャイルドラインが連携し、毎日16時～21時までフリーダイヤルでつながります）は、予定していた公開講演会や研修は中止や延期になりましたが、活動自体は続けております。年度末の学校休校要請が契機になり、子どもたちにとってもこのコロナ禍の生活は、大変大きな不安を与えました。卒業や進級を控え、同級生たちと大切な思い出を作るはずだった日々や学びが突然奪われ、卒業式も通常通り行われず、進学や就職への不安、そんな憤りや寂しさを訴えるたくさんの声が届きました。

又、長い自粛要請は経済にも大きな打撃を与え、大人も子どもも不安なまま家庭に閉じ込められる状況が続きました。家庭で一緒にいられる時間が増えたというプラス面もありますが、体罰（虐待）など家庭内の問題点もまた顕在化した可能性もありました。こんな時だからこそ、いつも以上に充実した体制で子どもたちに寄り添いたいところでしたが、他ではチャイルドラインの活動自体を自粛せざるを得ない団体もあり、全国から苦渋の声が寄せられました。「こんな時だからこそ頑張ろう」と。おかげさまで栃木では、換気、消毒、三密に注意しながら通常通り活動を継続しております。このイレギュラーな状態が子どもたちの心に残した影響を注意深く見守り、適切な対応を考える必要があると思います。この活動も二十年になりました。子どもたちの声を真摯に受け止め、子どもの権利条約に則った社会構築のために、より一層の努力を続けていきたいと思っております。どうぞ皆様応援してください。

新型コロナと子どもたち

福田哲夫

新型コロナが騒がれ始めたころの2月15日の同窓会の新年会から9か月が経ち、収束どころかこれからが正念場、はてさてどこまで増え続けるのやら？

そんな中まだまだマスク生活に慣れない66歳の初老？の爺様がいます。7月頃からはマスクをやめて、マウスシールドを着用して診察をしています。もちろんマスクをしての会話が苦しくなるということもありますが、子どもたちからすれば相手の表情がわからないのはそれなりに不安になるのではないかと思うからです。マウスシールドを見ると、結構飛沫が付着しています。とは言ってもマスクをしなければならぬ所があるわけで、マスクを忘れて買い物に行けば、

マスク着用の店内放送が流れている。最近やっと慌てて車にマスクを取りに戻る機会も減ってきた。こんな生活いつまで続くのやら？

どんどん感染者が増えていく中、子どもの感染者は比較的少ないものの、小さい子どもを除けばほとんどの子どもがマスクを着用している。マスクを着用すれば表情によるコミュニケーションの表出が乏しくなる。子どもたちは、子ども同士の表情から感情や善悪の判断、さまざまな思いを学んでいく。特に乳幼児は、親の表情を見て豊かな感情を育てていくのに、親がマスクを着用していることで、どのような子どもに育っていくのやら・・・余計な心配かも？

内外の報告によれば、健康な子どもたちにとっては、感染してもほとんどが普通の風邪程度といわれている。新しい生活様式なんて言うよりも、元の生活に戻してあげたいものです。マスクも咳エチケットとしての着用でいいんじゃないのかな？なんて呑気なことをいつまで言っているのやら。

北里研究所理事長・北里大学学長決まる

皆様も既にご存じと思いますが、母校北里大学の顔が新しく選任され、2020年7月1日、小林弘祐（下写真左）が学校法人北里研究所理事長に就任（再任）しました。また、伊藤智夫前学長の任期満了に伴い、同日、島袋香子（下写真右）が北里大学初の女性学長に就任いたしました。

いずれも任期は、2020年7月1日から2024年6月30日までの4年間です。



（左；小林弘祐理事長、右；島袋香子学長）

新理事長（再任）小林 弘祐（こばやし ひろすけ）

1954年1月23日生まれ。78年慶應義塾大学医学部卒業。82年同大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。慶應義塾大学医学部助手、ドイツ連邦共和国ルール大学医学部生理学研究所助手、北里大学医学部講師、米国ハーバード大学訪問研究員、マサチューセッツ総合病院訪問研究員、北里大学医療衛生学部教授、同大学大学院医療系研究科長、北里大学長を経て、2016年7月より現職。19年4月北里大学名誉教授。

新学長（新任） 島袋 香子（しまぶくろ きょうこ）

1956年7月1日生まれ。79年琉球大学保健学部卒。93年北里大学大学院看護学研究科修士課程修了。00年同大学院博士後期課程修了。看護学博士。
北里大学病院助産師、北里看護専門学校専任教員を経て、88年北里大学看護学部助手に着任。08年教授、12年看護キャリア開発・研究センター長、14年看護学部長・看護学研究科長を経て、2020年7月より現職。

北里大学病院における新型コロナウイルス感染症への対応

片桐 真人

自己紹介

1980年北里大学医学部卒（5回生）です。現在、北里大学 医療衛生学部 医療検査学科（臨床検査技師教育）と大学院 医療系研究科呼吸器内科学で教育を、北里大学病院呼吸器内科で診療を行っています。

2020年5月から旧北里大学東病院に3西病棟責任医師として参加していますが、病棟では若い先生方が頑張ってくれています。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の第三波の中、感染拡大の問題と経済活動の維持の狭間で、医療や介護に関わられる会員の皆様は複雑な思いでおられるのではないのでしょうか。



（北里大学病院）

北里大学病院では2020年2月よりCOVID-19診療が始まり、4月の第一波までは本院で診療を行い、この間、クルーズ船対応で一時的に旧東病院を活用しておりました。神奈川県では4月の感染拡大の経験から、COVID-19移行期・蔓延期の医療体制として「神奈川モデル・ハイブリッド版」を作成し各医療機関への協力を要請いたしました。これに応じて、北里大学病院では、重症患者（人工呼吸管理・ECMO）に対する高度医療機関としては救命救急科、麻酔科が中心となって2月以降その役割を果たしておりましたが、それに加えて、中等症患者（高齢者、併存症のある方、

酸素吸入を必要とする方）の診療を行う重点医療機関として、3月に閉院した旧東病院をCOVID-19中等症専用病棟として再稼働し協力することとなりました。



（COVID-19中等症専用病棟として再稼働した北里大学東病院）

大学病院内の様々な部門からの協力を得て、5月20日に約30床（最大50床）を稼働できる中等症専用病棟をオープンすることができました。この病棟は北里大学病院の1病棟としての位置付けですが、その運営は北里大学病院、相模原市、神奈川県、相模原市病院協会の共同で行われています。医師（4内科、各2-3名で、本院各診療科兼務）や看護師などの医療スタッフや医療システムは北里大学病院で担っていますが、日当直医は相模原市病院協会にも協力いただいております。病院協会と連携協力することにより相模原医療圏におけるコロナ禍中の通常診療が維持できるような体制を整え現在に至っています。

2020年11月30日までに約150名の患者受け入れを行ってまいりましたが、最近の第三波では、報道等にもごさいますように高齢者比率の増加、肺炎合併の増加、重症者の増加などに伴い、中等症病棟では高齢者介護の側面への負担が大きくなり、さらに、本院のICU等の重症系に転棟・転科をお願いすることも増え、本院でのCOVID-19診療の負担も増えております。

診療面では、未だ確実に有効な治療薬が存在するわけではございません。ただし、当初より指摘されていますが、発症7日から10日後に肺炎の重症化への移行がみられ、これを念頭に必要なタイミングでのステロイドの使用は有効と考えられています。現在、旧東病院では、ノーベル医学・生理学賞を受賞された大村智先生により創製された抗寄生虫薬ストロメクトール（イベルメクチン）の医師主導型他施設共同治験を行っており、その有効性が期待されています。今後、有効な薬剤の開発や安全確実なワクチンが普及することが待たれます。

今後も続くと思われるCOVID-19に対して、同窓会会員の皆様は様々な面でご苦労されているかと思えます。どうぞ、COVID-19感染対策をしっかりなさっていただき、お過ごしください。